



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三五三号〕

処暑 しよしよ 八月二十三日

答志島和具のオイヤレ

祖先の霊を供養するお盆。その行事の一つに「精霊送り」しよりのりがあります。霊の依代であった供物などを川や海などに流し、精霊を送るのです。

鳥羽湾に浮かぶ答志島の和具では、精霊送り行事は「オイヤレ」と呼びます。離島では精霊は海に流すのです。八月十六日、コミュニティセンターを訪ねると、賑やかな声が聞こえてきました。飾り付けの済んだ精霊船が屋外に出されています。女竹めたけで船形を作った精霊船は長さ2メートルほど、シキビを敷いた上に、提灯やハスの造花で飾られ、小さな供養旗が見えます。船上には、白団子で作った僧侶や船頭も乗せられ、本格的です。

屋内では、初盆を迎える家人などで、数珠回しが行われ、そのあと送り念仏が始まりました。地区の女性たちが、「精霊船受け取ってくださいませ」と言い、ご詠歌えいかを唱和します。三十分ほど続いたでしょうか、そのご詠歌を聞いていると、仏教がこの島の人々にしっかりと根付いていることが伝わってきました。

ほら貝が吹き鳴らされると、地区の人々がそれぞれの家を抜いた笹竹「オイヤレ竹」と線香の束を持ってお参りにきます。一人ずつが線香の束を燃やすため、あたりは煙でもうもうとするほど。初盆はつぼんだな棚や庚申こうしんさんの祠などに線香を立て、最後に精霊船の竹筒に線香を入れます。竹筒はあたかも煙突のように煙りを上げています。僧侶の読経とくぎょうが済むと、船を大八車に乗せて一目散に港へ向かいます。そこから漁船に乗せて、精霊船は沖合で流されるのです。和具地区では、漁船が出発した後も人々は家に帰らないのも習わし。精霊船が流される前に、家の戸を開けると「霊が家に戻ってくる」のを嫌うためです。島の精霊送りは人々に見守られて、今年も無事に終わりました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『来る福絵手紙公募展作品募集』

令和3年9月18日～29日に開催の「第27回来る福招き猫まつり」では、「招き猫」を主題にした絵手紙を募集しています。

今年のテーマは、「人と人がつながり 福招き」。

幸せの黄色い招き猫。黄色は太陽のごとく輝き、皆に力を与えてくれます。

今年は皆が、うつむくことなく顔をあげ、元気になれるよう、また黄色の招き猫が招く良縁によって「人」と「人」がつながり、多くの幸せを運んでくれることを願う招き猫の絵手紙を募集します。

規 定／①1人につき1作品のみ。

②官製はがきまたは、同サイズの用紙を使用。

③未発表または発表予定のないもの。

④入選作品の著作権は、主催者に帰属するものとし、作者は著作者人格権を行使しない事に同意される方。

※尚、主催者側が開催主旨、公序良俗に反すると判断した場合には、作品の展示を差し控えさせていただきます。

応募先／住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、下記まで郵送。

〒516-8558 三重県伊勢市宇治中之切町52おかげ横丁内

「来る福招き猫まつり実行委員会」宛

締 切／9月5日(日) 必着分まで。作品は原則返却いたしません。

賞 品／大福賞1名(賞金3万円、記念品、賞状)、中福賞1名(賞金2万円、賞状)、

小福賞1名(賞金1万円、賞状)、五十鈴川郵便局長賞1名(記念品、賞状)、

吉兆招福亭賞1名(記念品、賞状)

※尚、入賞作品は、次回の招き猫まつりの切手シート、ポストカードに使用させていただきます。

受賞通知／9月18日(土)までに電話にて連絡

展示期間／9月18日(土)～9月29日(水)

展示場所／おかげ横丁内「特設会場」

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○『日本書記その2』

日本書記は全30巻にも及ぶ大歴史書です。天地開闢から持統天皇までを扱った漢文で記されています。古事記が文学的なものである一方、日本書記は日本の正史として年代を追って書いています。

したがってあまり面白みはないようです。

しかし正史としての地位は高く、一時、古事記は偽書とまでいわれ、片隅に追いやられていたほどです。

その真価をみいだしたのは本居宣長でした。

神話満載の古事記は戦後は皇国史観批判の嵐を浴びて冷遇されましたが、1990年代ころから

再び脚光を浴びるようになりました。

反対に日本書記の方の地位は下落していきました。

世の中の趨勢によって上がったたり下がったり、この2書は時代に翻弄されてきた歴史書といえましょう。

前回に引き続き日本書記についての興味あるお話です。

と き／8月25日(水) 18:30～20:00

講 師／山中 一孝(豆腐庵山中代表取締役)

参加費／一般 1,350円 会員 850円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『節気菓子』

野 菊 のさく

伊勢路をわたる風にも季節の移ろいが感じられ、数多くの野菊が愛らしい花を咲かせる頃となりました。練りきりで粒あんを包み、初秋の野に揺れる、小さな花に見立てました。

藤 袴 ふじばかま

夏の終わりに秋の初めに花を咲かせる藤袴。

香水蘭とも呼ばれ、秋の七草のひとつです。

葛生地と緑箔で彩り、この時季にふさわしい、花そのままの姿が印象的です。

露の玉 つゆのたま

草木の緑はなお深みを見せているものの、葉に滴る露のひと雫からは秋の気配が感じられます。

羊羹のきんとんとこし箔で、秋の季語「露の玉」をお菓子で表現しました。